

HEKIGA project

環境芸術と里山・動物との結合 芸文と富山市ファミリーパークの試み

富山大学芸術文化学部教授 安達 博文

2005年に再編統合された富山大学は地域社会への貢献を重要な使命の一つとしている。

これまでの美術系大学における教育、特に絵画の分野に於いては、課題を通して個人の発想に基づいた作品制作を行うことが中心であったが、これからは、学内での研究制作のみならず、積極的に学内から出て、建築、公共施設、公園等の目的を考慮した造形制作の活動を行なうことも、社会との関わりを持つことの意味では大切なこととして位置づけている。

一方、富山市ファミリーパークは、呉羽丘陵の豊かな自然の中で、動物や里山の魅力を通じた、人々と自然をつなぐ様々な事業を行い、富山市民はもとより、県内外の多くの人々に、憩いと環境学習の場を提供している。その中心となる自然体験センターが、2005年に完成した。

そこで、富山大学芸術文化学部と富山市ファミリーパークが協同し、芸術と里山や動物の魅力を結びつけることをテーマとした自然体験センター壁画制作を企画したものである。

制作の実現に向けて富山大学芸術文化学部学生9名、同短期大学部専攻科学生6名の有志によるプロジェクトチームを結成し、2006年6月に山本茂行富山市ファミリーパーク園長の案内で対象となる施設及び周辺を視察した。また、同時に山本園長の尽力によって多くの個人や企業から協賛を募り、制作及び作品設置費用を工面することができた。

施設に設置する壁画に対しての今回のねらいや学生が視察により受けた印象を踏まえ、自然体験センターの目的、園内の動物及び関連施設、周辺の自然環境、入園者を考慮し、どのような画面構成にするのか、チーム内で種々の検討を行った。その結果、共通のテーマとして24時間を通した園内の動物や自然を心象的に捉えること、対象施設の図面を基にした壁面の割り付けにより、11箇所の個人、5箇所の共同による壁画制作を行うこととし、制作がスタートした。

以下は、壁画の完成に至るまでのプロセスである。



1. 園内の視察
(2006年6月／富山市ファミリーパーク)



2. 制作に向けて検討
(2006年8月／本学)



3. 縮小サイズによるエスキース制作の開始
(2006年11月／本学)



3. 完成した各人のエスキースを組み合わせせて検討
(2007年2月/本学)



6. エスキースを基にアクリル絵の具で作画を開始
(2007年3月/本学)



4. 山本園長を交え、本制作に向けての打ち合わせ
(2007年2月/自然体験センター)



7. 制作風景
(2007年3月/本学)



5. アルミ板(120cm × 300cm)の表面に紙やすりを掛けた後、
白色の下塗りを施す (2007年3月/本学)



8. 共同制作による作画を検討
(2007年4月/本学)



9. 完成作品の前で (2007 年 4 月 / 本学デッサン室にて)



10. 地元保育園児も式典に参加した完成式
(2007 年 4 月 / 富山市ファミリーパーク自然体験センター)



11. 設置された個人制作による壁画

【富山市ファミリーパーク自然体験センター壁画制作を終えて】

構想から完成までほぼ10ヶ月間を要し、学内にて制作後、完成した作品をセンター壁面に設置したものである。

西頭徳三富山大学長、前田一樹芸術文化学部長、森雅志富山市長、山本茂行富山市ファミリーパーク園長、賛助会員、地元関係者等、多くの参加者のもと2007年4月21日に完成式を執り行った。除幕に際し、富山大学の吹奏学部員によるファンファーレや地元保育所の園児たちによる可愛い挨拶は、式典を大いに盛り上げた。

創作活動における作家と社会との関わりを考えた場合、会場展示による作品発表もその一つであるが、今回の活動のように、設置される場所の目的や周囲の環境を考慮することによって生まれるパブリックアートも存在する。参加した学生は今回の制作を通して様々なことを体験し、学内では得る事の出来ない多くの事を学び得たのではと思う。また、本学の教育・研究活動の内容の一端を広く社会へ発信することにおいても大いに意義があった。

本企画に際して、各方面の方々からの多大なお力添えがあったことを、この誌面を借りて、深く感謝を申し上げる次第である。

○富山市ファミリーパーク自然体験センター壁画制作

主催：富山大学芸術文化学部

富山市ファミリーパーク

制作：富山大学 壁画制作プロジェクトメンバー

大坪 遥

北野 加奈恵

小林 圭介

桜井 裕子

澤崎 円

篠原 俊弥

砂田 友香里

高見 基秀

土井 美智子

永田 朋美

水田 綾子

松木 由佳

馬淵 陽子

光本 幸子

山下 結希

(五十音順)

協賛：個人43名

企業25社